

よつくら通信

文責；いわき市立四倉小学校長 小川幸一

伝統「強さ」をつなぐ

21日に、小学校陸上競技大会が開かれ、四倉・久之浜・小川・川前・内郷・好間・三和方部の21校の小学校6年生、約460名が参加しました。

6年生は、昨年から毎朝「朝の運動」に取り組み、体を鍛えてきました。参加する種目ごとに別れ、競技種目の練習を始めたのは運動会終了後からでした。家庭訪問以降は、全教員が6年生の指導に参加し、学校全体で6年生の自己目標を達成させるようバックアップしてきました。6年生の子ども達の昨年からの毎日の運動の積み重ねと、先生方の一体となった指導により、大会ではどの児童も自己ベストを達成できたようで、本当にうれしく思っています。



大会に参加することで自己目標達成のために努力すること、みんなで協力し合って練習するという団結力の向上を願ってきたところです。陸上競技大会後の6年生の姿を見ていると、自信と思いやりが感じられ、行動も高学年らしくきびきびとし、頼もしい限りです。

表彰を受けた児童はリレー選手を含め延べ47名。表彰状を手にしなかった児童の中には、競技した組にさらに強い選手がいたために、表彰を受けた児童よりも好記録であるにもかかわらず表彰されなかったという不運な児童もいます。悔しさでいっぱいだとは思いますが、これに耐えさらに伸びてほしいと願っています。

総合10位以内の児童のみを紹介します。

<p><100mB女子> O・E 総合3位 15秒27 N・Y 総合4位 15秒36 <800m女子> N・M 総合3位 2分48秒76 M・I 総合6位 2分51秒72 <80mH女子> A・S 総合5位 17秒18 M・S 総合8位 17秒95 N・G 総合10位 18秒40 <走り幅跳び女子> K・A 総合6位 3m34cm A・M 総合7位 3m33cm <走り高跳び女子> K・S 総合3位 1m10cm R・S 総合4位 1m10cm</p>	<p><100mB男子> H・K 総合1位 14秒63 S・S 総合4位 14秒84 E・W 総合6位 15秒16 <1000m男子> N・K 総合2位 3分23秒12 J・O 総合6位 3分28秒86 <80mH男子> M・H 総合2位 15秒14 R・U 総合4位 16秒28 <走り幅跳び男子> H・S 総合3位 3m78cm S・S 総合4位 3m70cm <走り高跳び男子> N・O 総合1位 1m30cm S・S 総合7位 1m10cm</p>
--	--

＜ソフトボール投げ女子＞

K・U 総合4位 22m84cm
M・O 総合6位 21m54cm

＜4×100mリレー女子＞

A・E、N・Y、N・G、A・S、M・I、K・S
総合1位 58秒93

＜ソフトボール投げ男子＞

H・W 総合9位 39m21cm
＜4×100mリレー男子＞

H・K、E・W、M・H、N・K、S・S、H・S
総合1位 57秒14

次は5年生がこの強さの伝統を引き継ぐ番です。そこで、現在6年生の協力を得て、6年生に別の用事がない限り一緒に朝の運動の時に、陸上の基礎練習をしているところです。5年生にも、こつこつと努力すること、みんなでひとつになって活動をするという心をさらに育ててほしいと願っています。

がんばれ5年生。6年生お疲れ様でした。



7月の行事

3日(火) 集金日(低学年) 5校時限放課(～6日)	17日(火) 5年生手話教室 ニュースポーツ大会 班長会議
4日(水) 集金日(中学年)	20日(金) 1学期終業式 マイリン先生とのお別れの式
5日(木) 集金日(高学年) PTA常任委員会	21日(土) ニュースポーツ
6日(金) 七夕集会	23日(月) 水泳指導 1・2・3区 13:00～
7日(土) 安全安心なまちづくりパレード	25日(水) 水泳指導 4・5・6区 13:00～
8日(日) 日清カップ福島県大会	26日(木) 水泳指導 7・8・9区 13:00～
10日(火) 5年生陶芸教室	27日(金) 水泳指導 1・2・3区 13:00～
11日(水) 校外子ども会、給食センター学校訪問 4年生手話教室	30日(月) 水泳指導 4・5・6区 13:00～
	31日(火) 水泳指導 7・8・9区 13:00～

＜心の教育相談員来校日＞
3・6・9・11・17日

＜学校司書来校日＞
5・6・12・13・19日

新聞、本読むと好成績

17年1月に小学6年と中学3年を対象に国語、算数・数学で実施した学力の結果、抽校の保護者約14

前の2013年度調査と同様、親の収入や学歴が高いほど学力が高いとの結果も判明した。ただ、今回の調査で格差縮小につながる変化は見られなかった。文科省の担当者は「学力向上に有効な取り組みを家庭や学校で粘り強く続け底上げを図っていく」としている。

文科省・学力テスト分析

万人へのアンケートを分析。保護者の年収や学歴といった家庭の社会・経済的背景を指標として4階層に分け、テストの平均正答率を比べた。

全教科で階層が高くなるほど正答率が上昇。特に数学Aでは、最も高い層で正答率77.1%だったのに対し、最も低い層は52.8%とかなりの差が開いた。

一方、最も低い層の中で学力が全体の上位25%に入った子どもの家庭を分析すると、「小さいころ絵本の読み聞かせをした」「毎朝朝食を食べさせる」「計画的に勉強するよう促す」などの質問に「当てはまる」と回答した割合が、上位でない家庭より5.8%12.0%高かった。

自制心や意欲、忍耐力を示す「非認知スキル」と呼ばれる子どもの能力と正答率の高さには緩やかな関係があり、中3よりも小6の方に強く現れた。非認知スキルと家庭の社会・経済的背景とはあまり関係が見られなかった。

規則正しい生活も好影響

文科省は27日、全国学力テストを基にした調査分析を公表した。日ごろから本や新聞に親しむことや規則正しい生活を促している家庭の子どもは親の収入や学歴が高くなっても好成績の傾向があり、子どもの自心や意欲の強さと学力の間に緩やかな関係性があることも浮かんだ。家庭の経済状況などによる子どもの学力格差が指摘される中、取り組み次第で不利を克服できる可能性が示された。

不利を克服し学力が上位となった子どもの特徴

- 毎日朝食を食べさせている
- 本や新聞を読むよう勧めている
- 小さいころ絵本の読み聞かせをした
- 計画的に勉強するよう促している
- PTA活動や保護者会などによく参加する

＜2018.6.28 福島民友新聞＞

新聞に次のような記事が掲載されました。

この記事には、学力差は家庭での過ごし方や非認知スキルに関係することが分かってきたと記述されています。「非認知能力」とは、個人的な「性格」的なスキルのことで、社会の中で生きていくために必要な数値化できない能力のことであり、一般知能 (IQ) とは関係のない、粘り強さ、協調性、やり抜く力、自制心、感謝する力といった類のものです。教師としての経験でも頷けるところが多々あります。

学校と家庭が連携し、社会で立派に自立できる人間にしたいものです。